

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平11-194316

(43)公開日 平成11年(1999) 7月21日

(51)Int.Cl.⁶

識別記号

F I

G 0 2 F 1/133

5 2 0

G 0 2 F 1/133

5 2 0

5 5 0

5 5 0

G 0 9 G 3/36

G 0 9 G 3/36

審査請求 未請求 請求項の数 6 F D (全 11 頁)

(21)出願番号

特願平9-366791

(22)出願日

平成 9 年(1997)12月26日

(71)出願人 000003078

株式会社東芝

神奈川県川崎市幸区堀川町72番地

(72)発明者 秋山 一郎

兵庫県姫路市余部区上余部50番地 株式会社東芝姫路工場内

(72)発明者 村田 浩義

兵庫県姫路市余部区上余部50番地 株式会社東芝姫路工場内

(72)発明者 木村 浩

兵庫県姫路市余部区上余部50番地 株式会社東芝姫路工場内

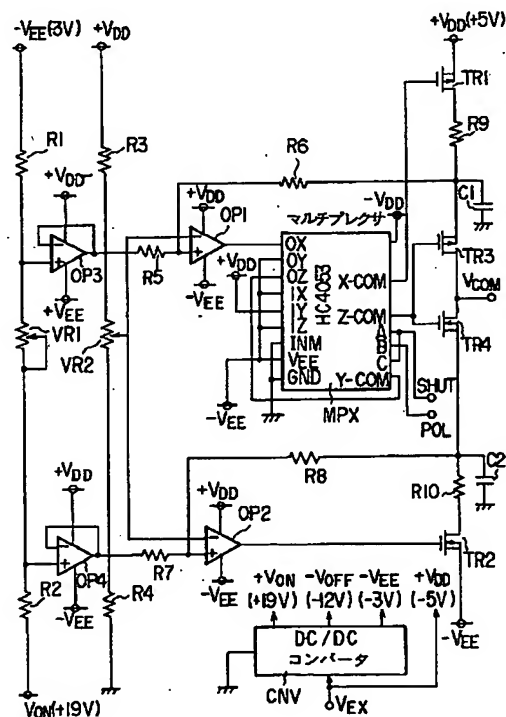
(74)代理人 弁理士 鈴江 武彦 (外 6 名)

(54)【発明の名称】 表示装置

(57)【要約】

【課題】電源電圧レベルを制約することなく電力損失を低減する。

【解決手段】複数の画素電極が配置されたアレイ基板と、コモン電極が配置された対向基板と、これら基板間に保持される液晶層と、これら画素電極を駆動するXおよびYドライバと、コモン電極を駆動するコモン電極駆動回路とを備え、コモン電極駆動回路は電源端子+VDD、-VEE間に直列に接続されるCMOSトランジスタTR3、TR4を所定周期で交互に導通させてCMOSトランジスタの接続点の電圧VCOMをコモン電極に出力するインバータ部TR3、TR4と、第1電源端子+VDDからインバータ部TR3、TR4に供給される第1電圧VCOMHおよび第2電源端子-VEEからインバータ部TR3、TR4に供給される第2電圧VCOMLを調整する電圧調整部TR1、TR2、MPX、R1-R10、VR1、VR2、OP1-OP4とを備え、電圧調整部は外部電源電圧を抵抗分割しこの分割割合に応じて第1および第2電圧を設定する分圧回路R3、R4、VR2を含む。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 複数の第1電極が配置された第1電極基板と、第2電極が配置された第2電極基板と、前記第1および第2電極基板間に保持される光変調層と、前記複数の第1電極を駆動する第1電極駆動回路と、前記第2電極を駆動する第2電極駆動回路とを備え、前記第2電極駆動回路は、第1電源端子と第2電源端子との間に直列に接続されるCMOSトランジスタを所定周期で交互に導通させてCMOSトランジスタの接続点の電圧を前記第2電極に出力するインバータ部と、前記第1電源端子から前記インバータ部に供給される第1電圧および前記第2電源端子から前記インバータ部に供給される第2電圧を調整する電圧調整部とを備え、前記電圧調整部は外部から供給される電源電圧を抵抗分割しこの分割割合に応じて前記第1および第2電圧を設定する抵抗分割手段を含むことを特徴とする表示装置。

【請求項2】 前記第1電極基板は前記第1電極としてマトリクス状に配列される複数の画素電極、これら画素電極にそれぞれ接続される複数のスイッチング素子、各々対応行の画素電極をこれら画素電極に対応するスイッチング素子により選択する複数の走査線、および選択行の画素電極の電位をこれら画素電極に対応するスイッチング素子を介してそれぞれ設定する複数の信号線を含み、前記第2電極基板は前記第2電極として前記画素電極に対向するコモン電極を含むことを特徴とする請求項1記載の表示装置。

【請求項3】 前記第1電極駆動回路は前記複数の走査線を順次駆動するYドライバと、前記外部電源電圧の下で複数の信号電圧を発生しこれら信号電圧で前記複数の信号線をそれぞれ駆動するXドライバを含むことを特徴とする請求項2に記載の表示装置。

【請求項4】 前記抵抗分割手段は、前記第1および第2電圧が前記画素電極の寄生容量のために前記外部電源電圧に依存した前記第2電極の電位シフト量の変動に追従するよう構成されることを特徴とする請求項3記載の表示装置。

【請求項5】 前記第1電極は前記第1電極基板において補助容量線と容量結合し、前記第2電極はこの補助容量線に接続されることを特徴とする請求項1に記載の表示装置。

【請求項6】 前記インバータ部は、前記CMOSトランジスタを構成する2つのトランジスタが時間的に重複せずに導通するよう制御する制御回路を含むことを特徴とする請求項3に記載の表示装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明はコモン電極が例えば液晶セルを介して複数の画素電極のマトリクスアレイに対向する表示装置に関し、特にコモン電極駆動回路がコモン電極の電位を周期的にシフトさせるために組み込ま

れた表示装置に関する。

【0002】

【従来の技術】近年では、液晶表示装置が薄型軽量、さらに低消費電力という利点からかなり普及しつつある。一般的な液晶表示装置は、液晶セルがアレイ基板および対向基板間に保持される構造を有する。アレイ基板および対向基板は各々絶縁性および光透過性を有し、液晶セルはアレイ基板と対向基板との間隙に液晶組成物を充填して形成される。アレイ基板は複数の画素電極のマトリクスアレイと、これら画素電極の行に沿ってそれぞれ形成される複数の走査線と、これら画素電極の列に沿ってそれぞれ形成される複数の信号線と、複数の画素電極のマトリクスアレイを全体的に覆う第1配向膜とを有する。複数の走査線はそれぞれ画素電極の行を選択し、複数の信号線はそれぞれ選択行の画素電極に信号電圧を印加するために設けられる。対向基板は複数の画素電極のマトリクスアレイに対向するコモン電極と、このコモン電極を全体的に覆う第2配向膜とを有する。これら第1および第2配向膜は画素電極およびコモン電極間に電位差がないときに液晶セル内の液晶分子をツイストネマチック(TN)配向させるために設けられる。偏光が一方の基板側から液晶層に入射すると、この偏光が液晶層の厚さ方向の軸上に並ぶ液晶分子のねじれに沿って旋回し、他方の基板へ導かれ、さらに偏光板を選択的に透過する。電位差が画素電極およびコモン電極に与えられると、液晶分子が画像を表示する基板表面に平行な平面からこの電位差に比例した角度だけチルトアップし、偏光の透過率を変化させる。

【0003】アクティブマトリクス型液晶表示装置では、複数の薄膜トランジスタ(TFT)が走査線および信号線の交差位置に隣接してそれぞれ形成され、各々対応する画素電極を選択的に駆動するスイッチング素子として用いられる。各TFTのゲートは1走査線に接続され、ドレインは1信号線に接続され、ソースは1画素電極に接続される。このTFTは走査線からの走査パルスの立ち上がりに伴って導通したときに信号線からの信号電圧を画素電極に供給する。画素電極およびコモン電極間の液晶容量CLCはこの信号電圧によって充電され、画素電極の電位はTFTが走査パルスの立ち上がりに伴って非導通となった後も保持される。

【0004】ところで、電界方向が一方向に維持されると、液晶以外の物質がこの電界によって液晶セル内を移動し、一方の電極側に集まってしまう。これは液晶セルの寿命を短縮する原因となる。従来、この解決策として、例えば1フレーム期間毎に電界方向を逆にするためにコモン電極の電位を基準電位として信号電圧を極性反転させる技術が知られる。さらに、信号電圧の極性反転はフリッカーを低減するために例えば1水平走査期間毎にも行われることがある。こうした場合、信号電圧の振幅は通常の2倍となる。コモン電極駆動回路はこの信号

電圧振幅の増大を回避する目的で積極的に基準電位をシフトさせるために用いられ、コモン電極の電位はコモン電極駆動回路から発生されるコモン電圧VCOMにより制御される。この場合、信号電圧はその中心レベルを基準にしてレベル反転され、コモン電圧VCOMはこの信号電圧のレベル反転毎に高レベルVCOMHおよび低レベルVCOMLの一方から他方に反転される。但し、画素電極の電位はTFTが非導通になったときにゲート・ソース間容量CGSの影響を受ける。すなわち、画素電極上の電荷が容量CGSを充電するために移動し、これが画素電極の電位レベルVP(1.3V程度)だけ低下させてしまう。信号電圧が0Vから+5Vの範囲で変化する場合には、高レベルVCOMHを+3.7Vに設定し、低レベルVCOMLを-1.3Vに設定する必要がある。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】従来のコモン電極駆動回路は上述のようなコモン電圧VCOMをプッシュプル回路から得ている。このプッシュプル回路は、+3.7Vの高レベルVCOMHを出力するために正の電源端子および出力端子間に接続されるNPNトランジスタと、-1.3Vの低レベルVCOMLを出力するために出力端子および負の電源端子間に接続されるPNPトランジスタを有し、これらトランジスタのベースに供給される極性反転信号POLに応じて高レベルVCOMHおよび低レベルVCOMLの一方が選択される。トランジスタのベースエミッタ間電圧VBEに対応する電圧降下、オペアンプの出力電圧範囲、およびつきぬけ電圧のパラツキ(電源電圧から1.5Vくらいまでは出力できない)を考慮すると、正および負の電源端子の電圧はそれぞれ+6.5V、-5V程度に固定されなければならない。しかし、これら電源電圧はコモン電極駆動回路を除いて液晶表示装置で使用されない。従って、これら電源電圧の使用が通常+5Vに設定される外部供給電圧から液晶表示装置に必要とされる様々な電源電圧を生成するDC/DCコンバータの構造を複雑化する結果となる。また、電圧VBEに対する電圧降下は電力損失となる。

【0006】本発明の目的は、電源電圧レベルを制約することなく電力損失を低減できるコモン電極駆動回路を提供することにある。

【0007】

【課題を解決するための手段】本発明によれば、複数の第1電極が配置された第1電極基板と、第2電極が配置された第2電極基板と、第1および第2電極基板間に保持される光変調層と、複数の第1電極を駆動する第1電極駆動回路と、第2電極を駆動する第2電極駆動回路とを備え、前記第2電極駆動回路は、第1電源端子と第2電源端子との間に直列に接続されるCMOSトランジスタを所定周期で交互に導通させてCMOSトランジスタの接続点の電圧を第2電極に出力するインバータ部と、

第1電源端子からインバータ部に供給される第1電圧および第2電源端子からインバータ部に供給される第2電圧を調整する電圧調整部とを備え、電圧調整部は外部から供給される電源電圧を抵抗分割しこの分割割合に応じて第1および第2電圧を設定する抵抗分割手段を含む表示装置が提供される。

【0008】この表示装置では、インバータ部が第1電源端子および第2電源端子間に直列に接続されるCMOSトランジスタを有し、電圧調整部がこれら第1電源端子からインバータ部に供給される第1電圧および第2電源端子からインバータ部に供給される第2電圧を調整する。この場合、インバータ部での電圧降下がほとんど生じないため、電源電圧を適切に選定することによってコモン電極駆動回路の電力損失を低減できる。さらに、電源電圧は電圧調整部によって調整されるため、安定化された状態で電源端子に供給される必要がない。このため、液晶表示装置に供給される外部電源電圧あるいは液晶表示装置において外部電源電圧から生成される様々な電源電圧を第2電極駆動回路の電源電圧とすることができ、いいかえれば、第2電極駆動回路だけに使用されるような電源電圧を液晶表示装置において生成する必要をなくすることができる。

【0009】

【発明の実施の形態】以下、本発明の第1実施形態に係るアクティブマトリクス型液晶表示装置を図面を参照して説明する。図1はこの液晶表示装置に組み込まれるコモン電極駆動回路の回路構成を示し、図2はこの液晶表示装置の回路構成を概略的に示す。

【0010】図2に示す液晶表示装置は、例えばカラー表示可能なノーマリホワイトの液晶パネル10と、この液晶パネル10に電気的に接続されるXドライバ12およびYドライバ14と、これらXドライバ12およびYドライバ14を制御する液晶コントローラ16とを備える。

【0011】液晶パネル10は、液晶セルアレイ基板および対向基板間に保持される従来と同様な構造を有する。すなわち、アレイ基板および対向基板は各々絶縁性および光透過性を有し、液晶セルはアレイ基板と対向基板との間隙に液晶組成物を充填して形成される。アレイ基板は(640×3)×480個の画素電極20のマトリクスアレイと、これら画素電極20の行に沿ってそれぞれ形成される走査線Y1からY480と、これら画素電極20の行に沿ってそれぞれ形成され信号線X1からX640×3と、これら画素電極20のマトリクスアレイを全体的に覆う第1配向膜とを有する。走査線Y1からY480はそれぞれ画素電極20の行を選択し、信号線X1からX640×3はそれぞれ選択行の画素電極20に信号電圧を印加するために設けられる。対向基板は画素電極20のマトリクスアレイに対向するコモン電極22と、このコモン電極22を全体的に覆う第2配向膜

とを有する。第1および第2配向膜は画素電極20およびコモン電極22間に電位差がないときに液晶セル内の液晶分子をツイストネマチック(TN)配向させるために設けられている。アレイ基板および対向基板の外側表面は互いに直交する向きに設定される2枚の偏光板で覆われる。

【0012】アレイ基板については、(640×3)×480個の薄膜トランジスタ(TFT)24がさらに走査線Y1からY480および信号線X1からX640×3の交差位置に隣接してそれぞれ形成される。各々対応する画素電極20を選択的に駆動するスイッチング素子として用いられる。各TFT24のゲートは走査線Y1からY480のうちの1本に接続され、ドレインは信号線X1からX640×3のうちの1本に接続され、ソースは全画素電極20のうちの1個に接続される。また、補助容量線26が画素電極20の行に沿って形成される。各画素電極20はコモン電極22との容量結合により液晶容量CLCを形成し、補助容量線26との容量結合により補助容量CSを形成する。また、各TFT24のゲートおよびソースはこれらの間に形成される寄生容量CGSを持つ。

【0013】液晶コントローラ16は外部から画素単位に供給される階調データを受け取り、階調データの供給タイミングに同期してスタートパルスSTおよびシフトクロックCKを発生し、階調データをスタートパルスSTおよびシフトクロックCKと共にXドライバ12に供給する。スタートパルスSTは1水平走査期間毎に発生され、シフトクロックCKはスタートパルスSTに同期して順次に供給される640×3個の階調データの各供給タイミング毎に発生される。液晶コントローラ16はさらに1水平走査期間毎に走査線Y1からY480のうちの1本を選択する選択信号を発生し、これをYドライバ14に供給する。シフトクロックCKは階調データが外部から供給されなくなったときに停止される。この場合、液晶コントローラ16は完全な黒を表す所定値に固定された階調データをXドライバ12に供給し、これと同時に0Vから+5Vに立ち上がるシャットダウン信号SHUTを図1に示すコモン電極駆動回路に供給する。また、液晶コントローラ16は画素電極のフレーム反転駆動およびライン反転駆動を行うために1フレーム期間および1水平走査期間毎に交互に0Vおよび+5Vの一方から他方に変化する極性反転信号POLをXドライバ12に供給する。この極性反転信号POLは図1に示すコモン電極駆動回路にも供給される。

【0014】Xドライバ12は640×3段のシフトレジスタ、D/A変換器、および640×3個のラッチ回路等で構成される。シフトレジスタはシフトクロックCKにตอบสนองしてスタートパルスSTを後段に転送する。D/A変換器はシフトクロックCKにตอบสนองし、電源電圧+VDD(+5V)から得られる0Vから+5Vまでの範

囲において階調データを信号電圧レベルに変換する。640×3個のラッチ回路は各々シフトレジスタの対応段に転送されたスタートパルスSTにตอบสนองしてD/A変換器の出力をラッチし、液晶コントローラ16から次に供給されるスタートパルスSTにตอบสนองしてラッチ電圧を信号電圧としてそれぞれ信号線X1からX640×3に持続的に供給する。尚、階調データが液晶コントローラ16によって所定値に固定された場合、D/A変換器はこの階調データを+5Vの信号電圧レベルに変換する。また、D/A変換器は液晶コントローラ16から供給される極性反転信号POLが+5Vであるときに階調データから変換される信号電圧レベルを0Vから+5Vの範囲の中心レベルである+2.5Vを基準にして反転する。

【0015】Yドライバ14は液晶コントローラ16からの選択信号に基づいて走査線Y1からY480を順次選択し、電源電圧-VOFFに等しい-12Vから電源電圧+VONに等しい+19Vに立ち上がる走査パルスを選択走査線に供給する。非選択走査線の電位は電源電圧-VOFFに等しい-12Vに維持される。

【0016】各TFT24は対応走査線からの走査パルスの立ち上がりに伴って導通したときに対応信号線からの信号電圧を画素電極20に供給する。画素電極20およびコモン電極22間の液晶容量CLCおよび画素電極20および補助容量26間の補助容量CSはこの信号電圧によって充電される。TFT24は走査パルスの立ち下がりに伴って非導通となるが、画素電極20の位置はこの後もコモン電極22の電位を基準にして保持され、TFT24が1フレーム期間後に再び導通したときにキャンセルされる。

【0017】図1に示すコモン電極駆動回路は図2に示す液晶パネルのコモン電極22を駆動するために上述の液晶表示装置に組み込まれる。この液晶表示装置では、図1に示すように+5Vの電源電圧がコンピュータ等から外部電源端子VEXを介してDC/DCコンバータCNVおよび電源端子+VDDに供給される。DC/DCコンバータCNVは外部電源端子VEXからの+5Vの電源電圧を安定な+19V、-12V、および-3Vの電源電圧に変換し、それぞれ電源端子+VON、-VOFF、および-VEEに供給する。コモン電極駆動回路は電源端子+VON、-VEE、+VDDに供給される+19V、-3Vおよび+5Vの電源電圧で動作する。ここで、+19Vおよび-3Vの電源電圧はDC/DCコンバータCNVにより安定化されているが、+5Vの電源電圧は外部電源端子VEXから直接供給されるため安定化されていない。

【0018】コモン電極駆動回路は図1に示すようにMOSトランジスタTR1-TR4、固定抵抗R1-R10、平滑コンデンサC1およびC2、可変抵抗VR1およびVR2、オペアンプOP1-OP4、並びにマルチプレクサMPXを有する。MOSトランジスタTR1お

よびTR3はPチャネル型で構成され、MOSトランジスタTR2およびTR4はNチャネル型で構成される。オペアンプOP1-OP4は+5Vおよび-3Vの電源電圧で動作し、これら電圧レベルにほぼ等しい出力を得ることができるレールトゥレール型で構成される。マルチプレクサMPXは例えば+5Vの電源電圧で動作するHC4053型で構成される。

【0019】PチャネルMOSトランジスタTR1のカレントパスは電源端子+VDDおよび抵抗R9の一端間に接続され、PチャネルMOSトランジスタTR3のカレントパスは抵抗R9の他端およびコモン電圧出力端子VCOM間に接続される。NチャネルMOSトランジスタTR4のカレントパスはコモン電圧出力端子VCOMおよび抵抗R10の一端間に接続され、NチャネルMOSトランジスタTR2のカレントパスは抵抗R10の他端および電源端子-VEE間に接続される。MOSトランジスタTR3およびTR4はマルチプレクサMPXによって制御されるゲート電圧に応じて相補的な関係で導通し、電源端子+VDDからMOSトランジスタTR1および抵抗R9を介して印加される正電圧(V_{COMH})および電源端子-VEEからMOSトランジスタTR2および抵抗R10を介して印加される負電圧(V_{COML})の一方をコモン電圧出力端子VCOMに出力するCMOSインバータを構成する。平滑コンデンサC1はCMOSインバータに印加される正電圧を平滑化するためMOSトランジスタTR1と抵抗R9との接続点および接地端子(0V)間に接続される。平滑コンデンサC2はCMOSインバータに印加される負電圧を平滑化するためにMOSトランジスタTR4と抵抗R10との接続点および接地端子間に接続される。

【0020】マルチプレクサMPXは図2に示す液晶コントローラ16からの極性反転信号POLが+5Vに立ち上がったときに電源端子-VEEから得られる-3Vの電源電圧を選択し、この極性反転信号POLが0Vに立ち下がったときに電源端子+VDDから得られる+5Vの電源電圧を選択し、こうして選択される電圧をゲート電圧としてMOSトランジスタTR3およびTR4に供給する。また、マルチプレクサMPXは液晶コントローラ16からのシャットダウン信号SHUTが+5Vに立ち上がったときに電源端子-VEEから得られる-3Vの電源電圧を選択し、シャットダウン信号SHUTが0Vに立ち下がったときにオペアンプOP1の出力電圧を選択し、こうして選択された電圧をゲート電圧としてMOSトランジスタTR1に供給し、さらにMOSトランジスタTR3およびTR4にも供給する。

【0021】オペアンプOP1-OP4は各々非反転入力端子および反転入力端子間の電位差に応じた出力電圧を出力端子から発生する。オペアンプOP1の出力端子はマルチプレクサMPXに接続され、オペアンプOP1の出力端子はMOSトランジスタTR2のゲートに接続

される。オペアンプOP1の非反転入力端子は抵抗R9とMOSトランジスタTR3との接続点に抵抗R6を介して接続され、オペアンプOP2の非反転入力端子は抵抗R10とMOSトランジスタTR4との接続点に抵抗R8を介して接続される。抵抗R3は電源端子+VDDおよび可変抵抗VR2に一端間に接続され、抵抗R4は可変抵抗VR2の他端および接地端子間に接続され、可変抵抗VR2の中間タップはオペアンプOP1反転入力端子およびオペアンプOP2の反転入力端子に接続される。オペアンプOP3の出力端子は抵抗R5を介してオペアンプOP1の非反転入力端子に接続されると共に、オペアンプOP3の反転入力端子に接続される。オペアンプOP4の出力端子は抵抗R7を介してオペアンプOP2の非反転入力端子に接続されると共に、オペアンプOP4の反転入力端子に接続される。抵抗R1は電源端子-VEEおよびオペアンプOP3の非反転入力端子間に接続され、可変抵抗VR1はオペアンプOP3の非反転入力端子およびオペアンプOP4の非反転入力端子間に接続され、抵抗R2はオペアンプOP4の非反転入力端子および電源端子+VON間に接続される。可変抵抗VR1の中間タップは可変抵抗VR1の一端に接続される。

【0022】すなわち、抵抗R3、可変抵抗VR2、および抵抗R4は電源端子+VDDおよび接地端子間の電圧を抵抗比により分圧する分圧回路を構成し、コモンセンター電圧V_{COMC}、すなわちコモン電圧V_{COM}の高レベルV_{COMH}および低レベルV_{COML}の平均を設定するために用いられる。他方、抵抗R1、可変抵抗VR1、および抵抗VR2は電源端子-VEEおよび+VON間の電圧を抵抗比により分圧する分圧回路を構成し、コモン電圧V_{COM}の振幅V_{COM(p-p)}、すなわち高レベルV_{COMH}および低レベルV_{COML}の差を設定するために用いられる。

【0023】ここで、実際V_{COMH}、V_{COML}、V_{COMC}、およびV_{COM(p-p)}の値について説明する。この実施形態の液晶パネル10では、信号電圧が電源端子+VDDの電圧から生成され、階調データに応じて0Vから+5Vの範囲で変化する。図4に示すように、例えば走査線Y1がYドライバ14からの走査パルスにより-12Vから+19Vに立ち上がると、対応TFT24が導通し、Xドライバ12から第1信号線Y1に供給される信号電圧を対応画素電極20に印加する。このとき、信号電圧が+5Vであると、画素電極20の画素電位は+5Vまで変化する。ところが、TFT24のゲートおよびソースはこれらの間に形成される寄生容量CGSを持つため、TFT24が非導通になったときに、画素電極20上の電荷が容量CGSを充電するために移動し、これが画素電極20の電位を所定レベルVP(1.3V程度)だけ低下させ、+3.7Vにしてしまう。また、信号電圧のレベル変換がフレーム反転駆動お

よびライン反転駆動のために行われた場合には、信号電圧がこの反転を行わない場合の同一階調データの下で0Vとなる。この場合、画素電極20の画素電位が0Vまで変化し、TFT24が非導通になった後寄生容量CGSのためにさらに所定レベルVP（1.3V程度）だけ低下し、-1.3Vにしてしまう。画素電極20およびコモン電極22間に必要とされる5Vの電位差を得るため、VCOMHはVP+3.7Vに設定され、VCOMLは-1.3Vに設定される。この場合、VCOM(p-p)は+5Vに設定され、VCOMCは+1Vに設定される。

$$\begin{aligned} VCOMH &= V0 + (V0 - V1) R6 / R5 \\ &= V0 (R5 + R6) / R5 - V1 \cdot R6 / R5 \quad \cdots (2) \\ VCOML &= V0 + (V0 - V2) R8 / R7 \\ &= V0 (R7 + R8) / R7 - V2 \cdot R8 / R7 \quad \cdots (3) \\ VCOMC &= (VCOMH + VCOML) / 2 \\ &= V0 (R5 + R6) / R5 - (V1 + V2) R6 / 2 \cdot R5 \\ &\quad \cdots (4) \\ VCOM(p-p) &= VCOMH - VCOML \\ &= (V2 - V1) R6 / R5 \end{aligned}$$

ところで、電圧V0は電源端子+VDDの電圧変動により変化し、図3に示す関係でコモンセンター電圧VCOMCを設定する。すなわち、電源端子+VDDおよび接地端子間の電圧は抵抗R3、可変抵抗VR2、および抵抗R4の分圧回路によって分圧されるため、電圧V0の変動率はこの分圧回路の分圧比（抵抗比）に依存する。このため、電圧V0はコモンセンター電圧VCOMCが電源端子+VDDの電圧変動時に液晶パネル10の種類によって決まる最適値にシフトするよう予め決定される。電圧V1およびV2は液晶パネル10にそれぞれ固有のVCOM(p-p)およびVCOMCと、電源電圧変動時にコモンセンター電圧VCOMCを最適値とする電圧V0、および式(4)および式(5)から決定される。抵抗R1およびR2はこうして決定された電圧V1およびV2が得られるように選定される。

【0025】実際の値としては、抵抗R1=8.2kΩ、R2=68kΩ、R3=47kΩ、R4=6.8kΩ、R5=4.7kΩ、R6=4.7kΩ、VR1=22kΩ、VR2=47kΩに選定されている。

【0026】ここで、このコモン電極駆動回路の動作を説明する。

【0027】オペアンプOP3およびOP4は可変抵抗VR1でコモン電圧振幅VCOM(p-p)を設定した分圧回路によって分圧された電圧に応じた出力電圧を低インピーダンス化してそれぞれ出力する。オペアンプOP1の非反転入力端子は抵抗R5を介して供給されるオペアンプOP3の出力電圧および抵抗R6を介して供給されるMOSトランジスタTR3のソース電圧に応じた電位に設定され、オペアンプOP1の反転入力端子は可変抵抗VR2でコモンセンター電圧VCOMCを設定し

【0024】抵抗R5、R7およびR8の抵抗値はそれぞれ次の関係を満足するよう選定される。

$$R5 : R6 = R7 : R8 \quad \cdots (1)$$

コモン電圧VCOMの高レベルVCOMHおよび低レベルVCOMLはそれぞれMOSトランジスタTR1のソース電圧およびMOSトランジスタTR4のソース電圧に等しい。これらVCOMH、VCOML、VCOMC、およびVCOM(p-p)はオペアンプOP1およびOP2の各反転入力電圧V0、オペアンプOP3の出力電圧V1、およびオペアンプOP4の出力電圧V2を用いて次のように表される。

た分圧回路によって分圧された電圧に応じた電位に設定される。オペアンプOP1はこれらの電位差に応じた出力電圧を発生し、マルチプレクサMPXに供給する。マルチプレクサMPXはシャットダウン信号SHUTが0Vに維持されるときこのオペアンプOP1の出力電圧をゲート電圧としてMOSトランジスタTR1に供給する。これにより、MOSトランジスタTR1での電圧降下が制御され、MOSトランジスタTR3のソース電圧を上述のVCOMHに安定化する、他方、オペアンプOP2の非反転入力端子は抵抗R7を介して供給されるオペアンプOP4の出力電圧および抵抗R8を介して供給されるMOSトランジスタTR4のソース電圧に応じた電位に設定され、オペアンプOP2の反転入力端子の電位は上述のコモンセンター電圧VCOMCが得られるように可変抵抗VR2を調整した分圧回路からの電圧に応じた位置に設定される。オペアンプOP2はこれらの電位差に応じた出力電圧を発生し、この出力電圧をゲート電圧としてMOSトランジスタTR2に供給する。これにより、MOSトランジスタTR1での電圧降下が制御されMOSトランジスタTR3のソース電圧を上述VCOMLに安定化する。

【0028】マルチプレクサMPXは極性反転信号POLが画素電極20の画素電位のレベル反転に伴って変化する毎にゲート電圧をMOSトランジスタTR3のゲート電圧を-3Vおよび+5Vの一方から他方に変化させる。MOSトランジスタTR3はゲート電圧が-3Vに設定されたときに導通し、ゲート電圧が+5Vに設定されたときに非導通となる。また、MOSトランジスタTR4はゲート電圧が+5Vに設定されたときに導通し、ゲート電圧が-3Vに設定されたときに非導通となる。

すなわち、安定な+3.7VのVCOMHおよび安定な-1.3VのVCOMLがそれぞれMOSトランジスタTR3およびTR4を介して交互にコモン電圧端子VCOMに印加される。これにより、液晶セル内の電界方向は画素電極20およびコモン電極22間の電位差を変化させずに逆転される。

【0029】もし、電源端子+VDDの電源電圧が変動すると、オペアンプOP1およびOP2の非反転入力端子の電位がこの電圧変動に伴って変化し、コモンセンター電圧VCOMCが最適値にシフトし、VCOMHおよびVCOMLがこのコモンセンター電圧VCOMCのシフトに対応してシフトする。

【0030】また、シャットダウン信号SHUTがシフトクロックCKの停止に伴って+5Vに変化すると、マルチプレクサMPXは-3Vのゲート電圧をMOSトランジスタTR1, TR3, およびTR4に供給する。このため、コモン電圧VCOMがMOSトランジスタTR1およびTR3を介して+5Vに設定される。

【0031】上述の実施形態の液晶表示装置では、CMOSインバータが電源端子+VDDおよび電源端子-VEE間に直列に接続されるCMOSトランジスタTR3およびTR4を有し、オペアンプOP1およびMOSトランジスタTR1のフィードバックループが可変電圧降下手段として電源端子+VDDからCMOSインバータに印加される正電圧および負電源端子-VEEからCMOSインバータに印加される負電圧をそれぞれを所望レベルVCOMHおよびVCOMLに調整する。この場合、CMOSインバータでの電圧降下がほとんど生じないため、液晶表示装置DC/DCコンバータCNVから得られるVCOMHおよびVCOMLに近い+5Vおよび-3Vを利用することができ、これによりコモン電極駆動回路の電力損失を低減できる。さらに、電源端子+VDDおよび-VEEの電源電圧は可変電圧降下手段によって調整されるため、安定化された状態でこの電源端子+VDDに供給される必要がない。従って、液晶表示装置に供給される外部電源電圧あるいは液晶表示装置において外部電源電圧から生成される様々な電源電圧をこのコモン電極駆動回路の電源電圧とすることができる。いいかえれば、コモン電極駆動回路だけに使用されるような電源電圧を液晶表示装置において生成する必要をなくすることができる。

【0032】また、この実施形態では、液晶パネル10においてVCOMHおよびVCOMLの差が適切となるようにVR1を調整することによりコモン電圧振幅VCOM(p-p)を設定し、液晶パネル10においてフリッカーが無くなるようにVR2の調整することによりコモンセンター電圧VCOMCを設定すれば、この後で電源端子+VDDの電圧が変動しても、コモンセンター電圧VCOMCがこの電圧変動に応じてシフトされる。このため、フリッカーが電源端子+VDDの電圧変動のた

めに発生することを防止できる。

【0033】さらに、この実施形態では、シフトクロックCKが液晶表示装置において停止したときに、コモン電圧VCOMがこのときの信号電圧+5Vに等しく設定されるため、不必要な直流電圧の印加から液晶セルを保護することができる。

【0034】次に、本発明の第2実施形態に係るアクティブマトリクス型液晶表示装置を説明する。この液晶表示装置は、コモン電極駆動回路が図5に示すように構成されることを除いて図2に示す第1実施形態と同様に構成される。このため、第1実施形態と共通部分は図5において同一参照符号で示され、その説明が省略される。この第2実施形態はDC/DCコンバータCNVにおいてコモン電極駆動回路専用の電源電圧を生成することが許される場合に適用されるもので、コモン電極駆動回路は第1実施形態と同様に液晶パネル10のコモン電極22を駆動するために液晶表示装置に組み込まれる。

【0035】この液晶表示装置では、図5に示すように+5Vの電源電圧がコンピュータ等から外部電源端子VEXを介してDC/DCコンバータCNVおよび電源端子+VDDに供給される。DC/DCコンバータCNVは外部電源端子VEXからの+5Vの電源電圧を安定な+1.9V, -1.2V, -1.3V, および-3Vの電源電圧に変換し、それぞれ電源端子+VON, -VOFF, -VBBおよび-VEEに供給する。コモン電極駆動回路は電源端子-VBB, -VEE, +VDDに供給される-1.3V, -3V, および+5Vの電源電圧で動作する。ここで、-3Vの電源電圧はDC/DCコンバータCNVにより安定化されているが、+5Vの電源電圧は外部電源端子VEXから直接供給されるため安定化されていない。また、DC/DCコンバータCNVはVCOMLに等しい-1.3Vの電源電圧が外部電源端子VEXから供給される電源電圧の変動に対応して変化し、この変化の割合が調整信号ADJによって可変できるように構成される。電源端子-VBBの電源電圧の変化割合はフリッカー現象を生じさせなくするために信号電圧の中心レベルに対応して適切に調整される。

【0036】図5に示すコモン電極駆動回路はMOSトランジスタTR1, TR3およびTR4、固定抵抗R3, R6, R9、平滑コンデンサC1、可変抵抗VR、オペアンプOP1、マルチプレクサMPX、並びにツェナーダイオードZDを有する。MOSトランジスタTR1およびTR3はPチャネル型で構成され、MOSトランジスタTR4はNチャネル型で構成される。オペアンプOP1は+5Vおよび-1.3Vの電源電圧で動作し、電圧レベルにほぼ等しい出力を得ることができるレールトゥレール型で構成される。マルチプレクサMPXは例えば+5Vの電源電圧で動作するHC4053型で構成される。

【0037】このコモン電極駆動回路では、抵抗R3が

電源端子+VDDおよびオペアンプOP1の反転入力端子間に接続され、ツェナーダイオードZDがコモン電圧振幅の基準を設定するためにオペアンプOP1の反転入力端子および電源端子-VBB間に逆方向接続される。オペアンプOP1の非反転入力端子は抵抗R9とMOSトランジスタTR3との接続点に抵抗R6を介して接続され、さらにコモン電圧振幅を調整するための可変抵抗VRを介して電源端子-VBBに接続される。可変抵抗VRの中間タップは可変抵抗VRの一端に接続される。MOSトランジスタTR4のカレントパスはコモン電極

$$VCOMH = VCOML + (1 + R6 / VR1) VD1 \quad \dots (6)$$

すなわち、VCOMHおよびVCOMLの差は可変抵抗VR1を調整することにより設定される。

【0039】動作において、オペアンプOP1は非反転入力端子の電位が反転入力端子の電位に等しくなるような出力電圧を発生し、マルチプレクサMPXに供給する。マルチプレクサMPXはシャットダウン信号SHUTが0Vに維持されるときこのオペアンプOP1の出力電圧をゲート電圧としてMOSトランジスタTR1に供給する。これにより、MOSトランジスタTR1での電圧降下が制御され、MOSトランジスタTR3のソース電圧を上述のVCOMHに安定化する。

【0040】マルチプレクサMPXは極性反転信号POLが画素電極20の画素電位のレベル反転に伴って変化する毎にゲート電圧をMOSトランジスタTR3のゲート電圧を-3Vおよび+5Vの一方から他方に変化させる。MOSトランジスタTR3はゲート電圧が-3Vに設定されたときに導通し、ゲート電圧が+5Vに設定されたときに非導通となる。また、MOSトランジスタTR4はゲート電圧が+5Vに設定されたときに導通し、ゲート電圧-3Vに設定されたときに非導通となる。すなわち、安定な+3.7VのVCOMHおよび安定な-1.3VのVCOMLがそれぞれMOSトランジスタTR3およびTR4を介して交互にコモン電圧端子VCOMに印加される。これにより、液晶セル内の電界方向は画素電極20およびコモン電極22間の電位差を変化させずに逆転される。

【0041】もし、電源端子+VDDの電源電圧が変動すると、電源端子-VBBの電位がこの電圧変動に伴って変化し、コモンセンター電圧VCOMCが最適値にシフトし、VCOMHおよびVCOMLがこのコモンセンター電圧VCOMCのシフトに対応してシフトする。

【0042】また、シャットダウン信号SHUTがシフトクロックCKの停止に伴って+5Vに変化すると、マルチプレクサMPXは-3Vのゲート電圧をMOSトランジスタTR1、TR3、およびTR4に供給する。このため、コモン電圧VCOMがMOSトランジスタTR1およびTR3を介して+5Vに設定される。

【0043】上述の第2実施形態によれば、少ない部品数でコモン電極駆動回路を構成することができ、かつ第

出力端子VCOMおよび電源端子-VBB間に接続される。オペアンプOP1の反転入力端子は電源端子-VBBよりもツェナーダイオードZDのツェナー電圧VD1だけ高い電位に設定され、オペアンプOP1の非反転入力端子は抵抗R6および可変抵抗VRによって分圧された電位に設定される。

【0038】MOSトランジスタTR3のソース電圧はコモン電圧VCOMの高レベルVCOMHとして用いられ、次のように表される。

1実施形態と同様の効果が得られる。

【0044】次に、本発明の第3実施形態に係るアクティブマトリクス型液晶表示装置を説明する。この液晶表示装置は、コモン電極駆動回路が図6に示すように構成されることを除いて図2に示す第1実施形態と同様に構成される。このため、第1実施形態と共通部分は図6において同一参照符号で示され、その説明が省略される。

【0045】図6に示すコモン電極駆動回路はMOSトランジスタTR1-TR4、固定抵抗R1-R11、平滑コンデンサC1およびC2、遅延用コンデンサC3、可変抵抗VR1およびVR2、オペアンプOP1-OP4、マルチプレクサMPX、インバータINV1-INV4、並びにアンドゲートAND1-AND2を有する。

【0046】このコモン電極駆動回路では、インバータ部がMOSトランジスタTR3およびTR4を含むCMOSインバータと、マルチプレクサMPX、インバータINV1-INV4、アンドゲートAND1-AND2、抵抗R11、およびコンデンサC3を含む制御回路とで構成される。MOSトランジスタTR3およびTR4は相補的な関係で導通し、電源端子+VDDからMOSトランジスタTR1および抵抗R9を介して印加される正電圧(VCOMH)および電源端子-VEEからMOSトランジスタTR2および抵抗R10を介して印加される負電圧(VCOML)の一方をコモン電圧出力端子VCOMに選択的に出力する。制御回路は、トランジスタTR3およびTR4を時間的に重複させずに導通させるように変化するゲート電圧を発生する。

【0047】マルチプレクサMPXは極性反転信号POLの立ち上がりに伴って電源端子-VEEから得られる-3Vの電源電圧を出力し、この極性反転信号POLの立ち下がりに伴って電源端子+VDDから得られる+5Vの電源電圧を出力する。マルチプレクサMPXの出力電圧はインバータINV1およびアンドゲートAND2に供給されると共に、抵抗R11およびコンデンサC3で構成される遅延回路を介してインバータINV2に供給される。この遅延回路は抵抗R11およびコンデンサC3の時定数に対応してマルチプレクサMPXの出力電圧を遅延する。アンドゲートAND1はインバータIN

V1の出力電圧およびインバータINV2の出力電圧に対応した出力電圧を発生し、この出力電圧をインバータINV4を介してMOSトランジスタTR3のゲートにゲート電圧として供給する。アンドゲートAND2はインバータINV2の出力電圧およびマルチプレクサMPXの出力電圧に対応した出力電圧を発生し、この出力電圧をMOSトランジスタTR4のゲートにゲート電圧として供給する。

【0048】この液晶表示装置では、上述の制御回路のコンポーネンツがそれぞれ図7に示すような波形で変化する出力電圧を発生する。コモン電圧VCOMをレベル反転させる際、トランジスタTR3およびTR4のゲート電圧はトランジスタTR3およびTR4の両方を一旦非導通に設定し、その後これらトランジスタTR3およびTR4の一方を導通させるように変化する。すなわち、制御回路はトランジスタTR3およびTR4の両方を同時に導通させることがないため、貫通電流がこれらトランジスタTR3およびTR4を介して流れることが防止される。従って、この液晶表示装置の低消費電力化を計ることができる。

【0049】

【発明の効果】本発明によれば、電源電圧レベルを制約することなく電力損失を低減できる液晶表示装置を提供できる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の第1実施形態に係る液晶表示装置に組み込まれるコモン電極駆動回路の構成を示す回路図であ

る。

【図2】図1に示すコモン電極駆動回路を備える液晶表示装置の構成を概略的に示す回路図である。

【図3】図1に示すコモン電極駆動回路において電源電圧+VDDに依存するコモンセンター電圧を示すグラフである。

【図4】図1に示すコモン電極駆動回路の動作を説明するためのタイムチャートである。

【図5】本発明の第2実施形態に係る液晶表示装置に組み込まれるコモン電極駆動回路の構成を示す回路図である。

【図6】本発明の第3実施形態に係る液晶表示装置に組み込まれるコモン電極駆動回路の構成を示す回路図である。

【図7】図6に示すコモン電極駆動回路のインバータ部の動作を説明するためのタイムチャートである。

【符号の説明】

OP1-OP4…オペアンプ

TR1-TR4…MOSトランジスタ

MPX…マルチプレクサ

R1-R11…固定抵抗

VR1, VR2…可変抵抗

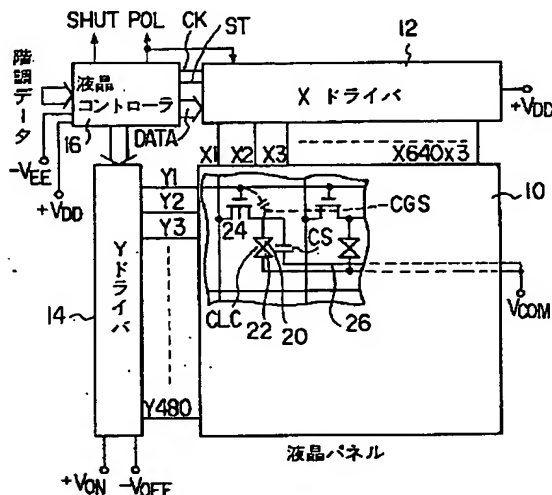
C1, C2…平滑用コンデンサ

C3…遅延用コンデンサ

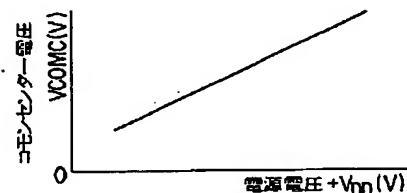
INV1-INV4…インバータ

AND1, AND2…アンドゲート

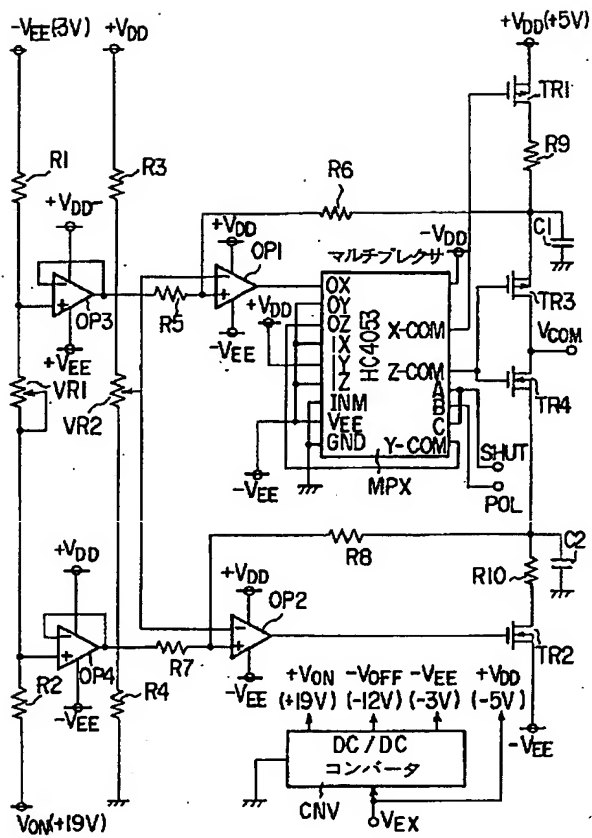
【図2】



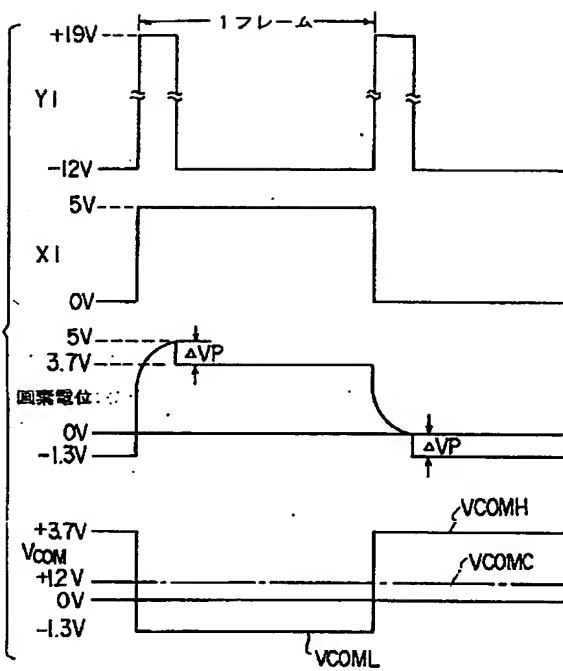
【図3】



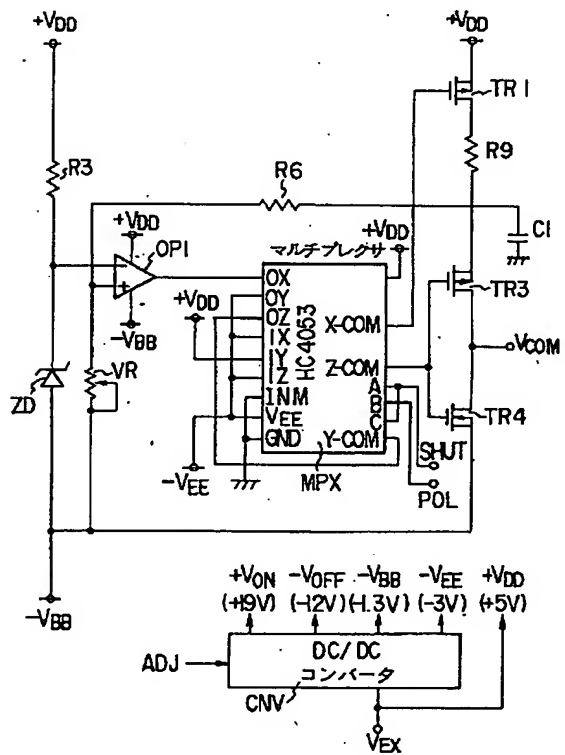
【図 1】



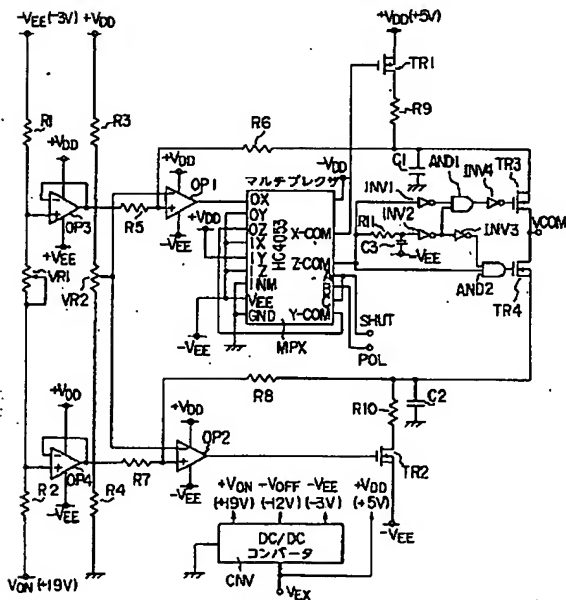
【図 4】



【図 5】



【図 6】



【図7】

